



P R E S S R E L E A S E

2020年6月2日 パリ

2020年中国企業支払い動向調査: COVID-19の影響で支払い遅延件数がさらに増加

2020年はCOVID-19による経済活動減速で支払い動向は急激に悪化する見込み

Cofaceの2020年中国企業支払い動向調査では、1,000社以上の中国企業について、2019年後半の支払い動向を調査した。データは第4四半期に収集されたため、COVID-19の流行が中国経済に及ぼす影響は反映されていない。この点に注意すべきではあるが、調査の結果、2019年の支払い動向は悪化しており、2020年の景気減速との関連で中国企業にとって厳しい兆候となっている。GDP成長率は過去30年で最低水準の1.0%となることが予想される。経済活動と支払い遅延の相関関係から、2020年には支払い動向の急激な悪化が予測される。さらに、ロックダウンによる影響が深刻なセクターでは、会社の存続を図るために支払いが遅延し、経営破綻する会社も出てくる可能性がある。

2019年は、全業種の与信期間の平均日数は86日と安定していた。しかし、平均与信期間が120日を超える回答企業の割合は、2019年には23%に増加した(2018年:20%、2017年:12%)。実際には、与信期間の最長が120日を超える企業は回答企業の50%にのぼる。本調査によると、2019年に支払い遅延を経験したと回答した企業は66%であり、2018年の62%から増加している。支払い遅延の状況も悪化しており、120日を超える支払い遅延を経験した会社の割合は、2018年の31%から2019年には37%まで上昇した。さらに懸念されるのは、年間売上高の10%を超える超長期(180日以上)の支払い遅延を経験した企業の割合が、2019年には27%にまで上昇している点である(2018年:21%)。年間の総売上高に占める未収金の割合が大きいと会社のキャッシュフローが逼迫する可能性があり、COVID-19のような外因性のショックが加わった場合には懸念される。

デフォルトリスクの最も高いセクター: 建設、運輸、エネルギー、自動車、ICT

2019年にキャッシュフローリスクが高まったセクターでは、社債のデフォルトと経営破綻の増加が予想される。年間総売上高の10%を超える売掛債権の超長期の支払い遅延の割合が最も高いセクターは、建設(30%)、運輸(30%)、エネルギー(29%)と自動車(28%)となっている。ICTセクターは、米中貿易紛争の混乱を背景に、支払い遅延を経験した企業の増加率が最も大きかった。ICTセクターの平均支払い遅延日数は、12日増えて102日間となった。これらのリスクはすべてのセクターに共通するが、好調な状態から危機に転じた企業の方が、そうでない企業と比較してリスクの可能性が高まる。

実際、企業がCOVID-19ショックの影響に対処するための備えが昨年と比較して弱くなっている可能性がある。2019年にキャッシュフローリスクを軽減するため与信管理ツールを利用しなかった回答企業は60%にのぼる。また、信用保険を利用していると回答した企業は17%に過ぎなかった。



P R E S S R E L E A S E

連絡先:

ジョナタン・ペレス- Tel. 03 5402 6108 – jonathan.perez@coface.com

Coface: for trade –共にビジネスを構築

70年の経験と最も幅広い地域のネットワークを持つことにより、コファスは取引信用保険及び提供している補足サービス(ファクタリング、スペシャルリスク、ボンドと信用情報)という分野において、世界有数のエキスパートとなっています。

100か国の国際ネットワークを通じて、コファスの専門家たちは世界経済の動きを常に分析しながら、50,000社の顧客事業の成功と成長、活性化のサポートを行っています。コファスグループのサービスとソリューションは、国内及び輸出市場で販売能力を向上するための与信判断のサポートと売掛債権の保全を含みます。2019年にはコファスの従業員は4250名となり連結売上高は15億ユーロとなりました。

www.coface.jp

コファス SA はユーロネクスト証券市場の A 部にて上場しています
ISINコード: FR0010667147 / ティッカーシンボル: COFA

